

令和7年度 教育事業実施報告

1 教育事業名 令和7年度「美ら島サンゴ大作戦」

2 ね ら い 国立公園にも指定される慶良間諸島の美しいサンゴ礁をフィールドに、スノーケリングによるサンゴの観察や専門家による講話、グループワークなどの体験をとおして、自然に対して興味関心を持ち、自然と人間の共存について考え行動できる人材を育成する。サンゴを題材に生物多様性や環境問題にも話題を展開し、参加者が自身の考え・思いを深め、現在の環境問題を自分事として捉える機会を提供する。さらに、グループでの活動や話し合い、まとめの発表などをとおして、仲間とともに一歩踏み出すことができる課題解決能力（学びに向かう力、人間性の向上）を育む。今回は「“自分の視点”からサンゴ礁とのかかわりを考える」を事業テーマとする。

3 期 日 令和7年9月13日（土）～15日（月）2泊3日

4 場 所 国立沖縄青少年交流の家・海洋研修場

5 参加人数 24名

6 参加者内訳 小学5年生 6名、小学6年生 4名
 中学1年生 5名、中学2年生 3名、中学3年生 6名
 （男子12名、女子12名）

7 講 師 ・谷口 洋基 氏（慶良間諸島国立公園ビジターセンター さんごゆんたく館 館長）
 サンゴとサンゴ礁のはなし
 ・森 有紀子 氏（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）
 サンゴのテリトリーウォーズ
 ジブンゴトとミチカゴトについて考える
 ・米田 英明 氏（琉球新報社通信員）
 サンゴと島の暮らし～渡嘉敷集落散策～

8 実施プログラム

月 日(曜)	活 動 内 容		
	午 前	午 後	夜
9月13日(土) 小潮 満潮 10:50 干潮 16:15	渡嘉敷港着（フェリー） 開講式	スノーケリング研修① （エリア内活動）	サンゴとサンゴ礁に関する講義 サンゴ標本の観察 ふり返り
9月14日(日) 小潮 満潮 12:07 干潮 16:59	サンゴのテリトリーウォーズ 海の資料展示室の見学	スノーケリング研修② （エリア外活動） 渡嘉敷集落の散策	環境問題を自分事として考える グループワーク ふり返り
9月15日(月) 小潮 満潮 14:13 干潮 6:46	スノーケリング研修③ （エリア外活動）	グループワーク 閉講式 泊港へ（フェリー） 報告会（とまりん） 解散	

10 事業の様子



スノーケリングの基礎



サンゴとサンゴ礁のはなし



サンゴのテリトリーウォーズ



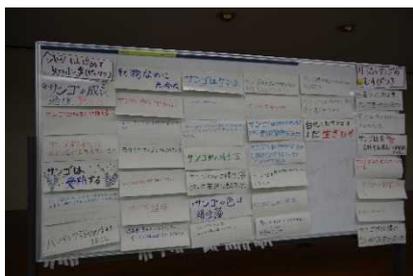
海の資料展示室見学



サンゴウォッチング



サンゴと島の暮らし



ジブングトとミジカゴト



まとめポスター作製



グループ発表

11 エピソード（参加者の声、アンケートより抜粋）

- ・スノーケリングなど普段体験できないことができた。
- ・サンゴのことがわかり、人と仲良くなれた。
- ・サンゴのことを深く知ることができ、楽しかった。
- ・一番最初に海に入った時の透明さと青い海。
- ・サンゴについて知らなかったことが分かった。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・参加者がスノーケリングの基礎技術を習得し、渡嘉敷島のサンゴ礁の美しさ・楽しさを体験できた。
- ・講師による講義や実習で、サンゴの多様性、人間とサンゴ礁の関わり、サンゴ礁に関する環境問題などについて深く学び、各参加者が自分なりの考えを持ち表現することができた。
- ・最終日のスノーケリングでは、各自がそれまでに身につけた技術・知識を活かし、目的をもって実施することができた。
- ・発表課題「自分とサンゴ」について、グループで意見交換をしつつ、事業で体験したこと・学んだことを振り返りながら、参加者それぞれが意見を発表できた。

(2) 課題

- ・スケジュールが詰まっていたので、入浴時間やゆりの時間など、参加者がリフレッシュや

参加者同士交流できる時間がもう少し取れるとよかった。

- ボランティアが参加できず、講師の負担につながったのではないかとされる。各班1人のボランティアの確保が課題である。
- 今年度の応募総数は44名で、応募定員の24名を上回った。小学生に比べ中学生の応募が多く、中学生を多めになった。